

オーストラリアのビクトリア州外国語教育と  
日本の小学校外国語教育政策への示唆

辻 伸幸

# オーストラリアのビクトリア州外国語教育と 日本の小学校外国語教育政策への示唆

## Foreign Language Education in Victoria, Australia and Policy Implications for Primary School Foreign Language Education in Japan

辻 伸幸

オーストラリアは、国を挙げて多文化社会を構築しようとしてきた。そのため、初等教育段階から多言語教育を導入し、外国語教育は必修として重要視している。ビクトリア州は外国語教育の先進的な州であり、その現状を州政府の報告書とウェブページで調査した。注目されることは、州政府が外国語を学ぶ意義や利点についてイニシアチブをとって発信していることである。このことは、外国語教育を小学校3年生から必修とした日本の小学校外国語教育政策に大きな示唆を与えるものである。

キーワード：オーストラリアの外国語教育、外国語を学ぶ意義や利点、日本への示唆

### 1 研究の目的と方法

#### 1.1 研究の目的

筆者は、2005年からオーストラリアにおける初等教育段階の外国語教育に関連した研究や現地調査、国際交流活動を実施してきている（辻 2006、辻 2009a、辻 2009b、辻 2010、辻 2013、辻 2019）。その理由は、オーストラリアの外国語教育が日本の小学校外国語教育に示唆を与え続け、互惠性に富んだ国際交流活動が可能であるためである。

2024年から新たな取り組みとして、筆者と本学の学生がボランティアとしてオーストラリアのビクトリア州にある州立 Mernda Central College の初等部の児童たちへの日本語教育支援を始めた。また、筆者は、2025年度から和歌山市立伏虎義務教育学校の2年生と Mernda Central College の2年生が留学生として、ぬいぐるみを相互交換して交流するプロジェクト支援を開始した。

本稿は、これらの支援活動や国際交流活動を支えるため

の基礎研究として、近年のオーストラリア・ビクトリア州における外国語教育の動向を明らかにすることと、学習指導要領や学修指導要領解説では触れられていない視点から日本の小学校外国語教育への示唆を得ることが目的である。

#### 1.2 研究の方法

オーストラリアにおいて、教育は連邦憲法上、州の責任において行われている。本稿は、ビクトリア州に焦点を当てて外国語教育を論じる。多文化主義政策をとっているオーストラリアにおいて多くの外国語が教えられているため本稿では、具体的な外国語教育が必要な箇所は日本語教育を取り上げる。

教育政策を論じるため、ビクトリア州教育省が発行している報告書（Victoria State Government Department of Education and Training 2021）とビクトリア州教育省のウェブサイトの研究対象として調査する。さらに、情報が

必要な事項はビクトリア州教育省外国語教育の問い合わせ用の電子メールアドレスで問い合わせる。

## 2 オーストラリアの外国語教育

### 2.1 初等学校の義務教育制度

オーストラリアの教育制度で、ビクトリア州の義務教育は、6歳から17歳までを対象とする。6歳が所属する学級は準備学級でありビクトリア州において、Foundation または Prep と呼ばれている (Department of Education, Victoria 2025a)。

準備学級から6年生までの初等教育と7年生から12年生までの中等教育に大きく分けることができる。

学期は4学期制をとっている。表1はビクトリア州教育省が公表している公立学校における2025年度の学期である (Department of Education, Victoria 2025b)。

表1 2025年度のビクトリア州の公立学校における学期

学期	期間
1学期	1月29日 ~ 4月4日
2学期	4月22日 ~ 7月4日
3学期	7月21日 ~ 9月19日
4学期	10月6日 ~ 12月19日

日本の義務教育学校のような公立一貫校もあるが、準備学級 (Prep) から12年生が在籍するP-12公立一貫校や準備学級 (Prep) から9年生が在籍するP-9公立一貫校がある。日本の義務教育学校は小学1年生の学齢の児童から中学3年生の学齢生徒まで在籍するので準備学級を除けば、P-9公立一貫校と同等である。1.1で述べた Mernda Central College は、P-12公立一貫校である。

College という名称は、ビクトリア州では日本の中学1年生の生徒から高校3年生の生徒が学ぶ学校やP-12一貫校で使われることがある。

また、公立学校ではない学校は、カトリック学校 (Catholic school) と私立学校 (Independent school) に区別されている。

### 2.2 外国語教育政策

オーストラリアの外国語教育は、Languages Other Than English (英語以外の言語) と呼ばれ Languages と複数形で表されているように多言語教育を意味している。一般的に、略して LOTE として使用されている。また、LOTEと同じ意味でLanguagesと表現されることもある。本稿では、引用文献でLOTEと同意でLanguagesと表記されている箇所も以下、LOTEと記述する。

嶋津は、1980年代から1990年代にかけてのオーストラリアの外国語教育政策を大きく次の2種類に分類している。一つは、多文化主義の観点からLOTE教育全体を推進しようとした外国語教育政策である。その中で、1980年代入ってから移住者たちの言語を経済面で国益を増進するための資源と見なす方向に転じたと述べている。もう一つは、経済面で英国に依存していたが、英国のEC加盟により経済的依存が困難になりアジア太平洋国家の一員としての方向を模索し、LOTE教育の中でアジアの言語を導入した外国語教育政策である (嶋津 2012 p.2)。

升谷は、オーストラリアにおける白豪主義の継続が事実上不可能な状況になり、多文化主義への転換と、移民・難民を対象とした政策を展開してきたことを述べ、教育政策が中心的な役割を果たしてきたことを指摘している (升谷 2023 p.28)。

ハグリーらは、オーストラリアにおいて外国語教育が国益である以上に、学習者の総合教育のために重要不可欠なものと考えられていることを示した。その点からLOTE教育と移民のための英語教育は、オーストラリアが国際社会の一員として活躍するために極めて重要であると述べている (ハグリーら 2013 p.127)。

国際交流基金は、連邦政府の白豪主義の撤廃、アジア重視の外交と多文化主義により、1980年代から1990年代にかけてオーストラリアの中等教育段階で日本語の学習者が増加したことを説明している。また、労働党政権によって1994年に出された「オーストラリアの学校におけるアジア語・アジア学習推進計画」により学習優先度の高いアジア言語として、中国語、日本語、インドネシア語、韓国語の4言語を全国の初等教育に導入されたことに触れている (国際交流基金 2024 p.2-3)。

これらのような過去の外国語教育政策の経過を経て、現

在のオーストラリアの初等教育における LOTE 教育はどのようなになっているのだろうか。ビクトリア州を例にとって考えてみる。

ビクトリア州は、毎年、教育省から LOTE 教育の包括的なデータを集め、言語教育の提供状況を分析した報告書を公表してきた。このことから言語教育を重要視しているビクトリア州の姿勢を伺うことができる。2025 年 8 月 31 日の時点において、最新の報告書は、2020 年度のものである (Victoria State Government Department of Education and Training 2021)。2021 年度版以降は、公表されていない。これは、新型コロナウイルスの影響で、対面授業ができない期間があり、今までのような包括的なデータを取ることができなかった可能性が考えられる。新型コロナウイルスの鎮静化に伴って、対面教育が通常となったため、再び、この報告書の最新版が出されると推測される。確認のためビクトリア州教育省に問い合わせたところ、2024 年度版を公表するため準備を進めていると回答があった。

2020 年度の報告書によると公立の初等学校では、15 の言語が教育されている (Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.35)。

多く教育されている言語は、中国語、イタリア語、日本語、インドネシア語、フランス語、オーストラリア手話、スペイン語、ドイツ語の順であり、それらの学習者は、全言語履修者の 97.5%を占めている (表 2)。

このことから、現在においても多言語教育がしっかりと定着していることが明らかである。さらに、中国語、日本語、インドネシア語などのアジアの言語の履修者が多く、環太平洋地域のアジア地域重視の方針は続いていると言える。

### 2.3 外国語教育のタイプ

ビクトリア州の公立初等学校における LOTE 教育は、「独立した教科タイプ」「内容言語統合型学習タイプ」「バイリンガルプログラム」の三つに分類されている。表 3 は、2020 年度に初等学校で実施されたタイプ別の履修者数である。

ほとんどの LOTE 教育は、日本と同じように独立した教科として教えられている。ビクトリア州教育省は、目標言語の教授と学習、および言語と文化の関連性の理解に重点

を置いていると説明している (Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.9)。

表 2 2020 年度のビクトリア州公立初等学校における LOTE の履修者の状況  
(筆者が Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.35-36 から作成)

言語	総履修者数 (人)	%
中国語	74,718	22
イタリア語	62,930	18.6
日本語	58,205	17.2
インドネシア語	46,991	13.9
フランス語	30,138	8.9
オーストラリア手話	29,844	8.8
スペイン語	19,204	5.7
ドイツ語	8,137	2.4
その他の 7 言語	8,921	2.5

表 3 2020 年度のビクトリア州公立初等学校における外国語教育タイプ別履修者数  
(Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.10 から引用)

言語	履修者数 (人)	%
独立した教科タイプ	320,254	94.4
内容言語統合型学習タイプ	16,318	4.8
バイリンガルプログラム	2,552	0.8

内容言語統合型学習タイプは、Content and Language Integrated Learning (以下 CLIL) として世界的に注目を集めている学習形式である。白畑らは、CLIL が多言語社会であるヨーロッパで生まれ、発展してきたことに触れ、次のように定義している (白畑ら 2019 p.42-43)。

授業で扱われる内容の学習と言葉の学習を統合した学習。内容と言語に関する学びを統合させながら、様々な学習スキルを身に付けさせることもねらいと

している。

Victoria State Government Department of Education and Training は、CLIL の定義に触れ、例として理科のような教科の知識を身につけながら、同時にイタリア語などの目標言語を学び、使用することと説明している (Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.4 )。

バイリンガルプログラムは、部分的なイマージョン教育を提供し、週に 450 分以上、対象言語で授業が行われる環境に学習者が浸る形で行われることと説明されている。また、2020 年度にバイリンガルプログラムを実施している初等学校は、ビクトリア州に 11 校と報告されている。

(Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.57 )。表 4 は、そのバイリンガルプログラムを実施している初等学校を示している。

表 4 2020 年度のビクトリア州公立初等学校におけるバイリンガルプログラム実施小学校  
(Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.57 から引用)

言語	学校名
日本語	Caulfield Primary School
日本語	Huntingdale Primary School
日本語	Gruyere Primary School
中国語	Abbotsford Primary School
中国語とベトナム語	Richmond West Primary School
ベトナム語	Footscray Primary School
ドイツ語	Bayswater South Primary School
オーストラリア手話	Aurora School
イタリア語	Brunswick South Primary School
フランス語	Camberwell Primary School
ギリシャ語とマケドニア語	Lalor North Primary School

内容言語統合型学習タイプとバイリンガルプログラムで学んでいる児童が極端に少ないのは、優れた指導力をもつ教師の確保が、学校ごとに必要であり難しいからと推測される。特にバイリンガルプログラムを導入している学校での指導教員には、対象言語の非常に高い運用能力が求めら

れる。また、言語によっては、ネイティブスピーカーであり、ビクトリア州教員登録機構 (Victorian Institute of Teaching) に登録されている教員である必要がある。ビクトリア州内の公立初等学校において LOTE で日本語のバイリンガルプログラムを実施している学校は、2020 年度には、Caulfield Primary School、Huntingdale Primary School、Gruyere Primary School の 3 校が報告されている (Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.57)。しかし、Gruyere Primary School は 2021 年ごろから児童数の減少による休校状態であることがビクトリア州公文書館 (Public Record Office Victoria 2025) のウェブページで公表されている。現在は、ウェブページで確認できる州都メルボルンにある Huntingdale Primary School と Caulfield Primary School の 2 校のみと考えられる。

上石は、Caulfield Primary School で調査を行い、2 人の日本人教員の授業を報告している。日本人のボランティアがいて、日本語でのコミュニケーション活動に積極的に関わらせる重要な人材となっていると述べている。これだけの人的資源の充実をしなければならず、簡単には導入できないことが理解できる (上石 2014 p.170)。

## 2.4 外国語教育の導入や中止と授業時間数

ビクトリア州教育省は、私立を含む全ての学校に対して LOTE を含む八つの学習分野 (芸術、英語、保健体育、人文科学、LOTE、数学、科学、テクノロジー) を教えるように要求している (Department of Education, Victoria 2025c)。

要求しているということは、必修を意味する。ただし、日本のように必修指導時間数の設定はされていない。ビクトリア教育省下にあるビクトリア州カリキュラム評価機構 (Victorian Curriculum and Assessment Authority 2025) のウェブページでは、いかなる学習領域についても授業時間を義務付けておらず、Prep (準備学年) から Year 10 (10 年生) までの学校の指導と学習プログラムの編成は、各学校の責任に任せられていることを明言している。

どの言語を LOTE として続けるのか、また言語を変更するのかも各学校で決定することができる。ビクトリア州教

育省のカリキュラム・教育実践の担当部署に問い合わせたところ、教育省ではどの言語を教えるかといった重要な決定において、地域コミュニティの関与を得ること、そして児童・生徒が外国語学習から得られる認知的、学習的、実践的な利点についての理解をするように指導していると回答があった。さらに、学校が考慮すべきこととして次の4点を求めている。

- ・ビクトリア州教員登録機構に登録されている教員の確保
- ・どのタイプのプログラムを採択するか
- ・対面授業か対面とネットのブレンド型授業かなどの実施方法
- ・全校実施か特定の学年実施、週当たりの授業回数など

この4点で最初に挙げられている登録教員の確保は、LOTE教育にとって極めて重要であると言える。また、LOTEで同じ言語の教育を継続するのも、今あるLOTE教育を中断し新しいLOTE教育を導入するのも、日本と違って権限が大きい校長の判断が影響することは、筆者が2012年8月に現地調査を実施した際、複数の教員から事実確認をしている。

LOTEについての授業時間もそれぞれの学校で決めることができるため、格差がある。ビクトリア州政府は、2020年度の初等学校におけるLOTEの授業時間を報告している（Victoria State Government Department of Education and Training 2021 p.38）。その中で、最も多い授業時間が一週間に31分から60分実施している学校の87%で、次に多いのが30分以下の11.1%であった。ごく少数ながら91分から120分実施している学校数が0.95%、61分から90分実施している学校数が0.7%と続く。数値にはバイリンガルプログラムを実施している学校を除いている。これは、バイリンガルプログラムでは、LOTE以外の教科もその対象言語を使用して授業を実施している特殊性に起因すると考えられる。

## 2.5 LOTEを学ぶ利点や意義

ビクトリア州政府は、LOTEを学ぶ利点や意義について多面的な観点を公言している。

ビクトリア州は、州におけるLOTE教育の在り方に関す

る施策の実施計画を策定した。これは、1999年から2010年の間にビクトリア州内の初等学校でのLOTE教育の導入が88.7%から69.4%に落ち込み、397校がLOTE教育の廃止を実施した状況から、LOTE教育の重要性と教授法を再活性化するための政策であった（State of Victoria, Department of Education and Early Childhood 2013 p.3）。

この実施計画書名は、「言語 — あなたの世界を広げる（Languages – expanding your world）」となっておりLOTEを学ぶ意義を表していると言える。なお、その中で、LOTEを学ぶ利点や意義を具体的に七つ明言している（表5）。

表5 LOTEを学ぶ意義や目的

（筆者が State of Victoria, Department of Education and Early Childhood Development, Victoria, 2013 pp.4 から翻訳）

LOTEを学ぶ意義や目的
・第一言語のリテラシーの発達
・問題解決能力の発達
・異文化理解の発達
・コミュニケーション能力の発達
・幅広い職業の選択の可能性
・オーストラリアの社会的結束の促進
・ビクトリア州の経済貢献

前述の政策実施計画の外にも、何のためにLOTEを学ぶのか、その利点や意義を掲載している資料は、ビクトリア州教育省のウェブサイトにも三つ確認することができる。このウェブサイトには、保護者、学校教職員、幼児教育・保育分野の関係者、一般の人々に向けての政府の情報及び資料を提供しており、上記の三つは政策・助言ライブラリーの中に収められている（Department of Education, Victoria 2025d）。

この三つの資料は、「LOTEの促進」のページで「LOTEの学びにおける利点」として掲載されている。それぞれダウンロードが可能である。三点すべてが、ファクトシートとして概要をA4用紙一枚のコンテンツにまとめられている。見る人にとって内容を理解しやすく、印刷して保護者や関係者に配布することも可能であることは注目に値する。

さらに、LOTE 教育を受ける立場の児童や生徒に配布することさえできると考えられる。学ぶ側がその意義を明確に理解し外国語を学ぶことは、受動的に学ばされている状況と比べ良い結果を生じることが推測される。

図1に示す資料は、「どのようにLOTEが、子どもの脳の働きを伸ばすのか（How languages can boost your child's brainpower）」（Department of Education, Victoria 2025d）である。この資料は、まさに、なぜLOTEを学ぶのか、具体的な引用はないが研究を元にと述べ、五つの可能性（表6）を示して意義を提示している。

一つ目の「脳の発達を刺激する」では、別の言を学ぶことが脳の重要な部分の発達に役立つとともに、より創造的に考える力や考えを結びつける力、問題を容易に解決する力を養うことを挙げている。

二つ目の「英語の運用力を大きく伸ばす」では、LOTEで学ぶ言語の構造と公用語である英語の構造を比較したり、対比したりする中で、英語の構造の理解を深め読むことのできる力や書くことのできる力を高めることに触れている。

三つ目の「記憶力、集中力、数学的能力を向上する」では、情報を順序立てて覚える力や集中したり関連づけたりする能力を強めると説明している。

四つ目の「学校での全般的な学業成績を向上する」では、別の言語を学ぶことは優れた長期的な学業成果と関連していることを述べている。また、世界で高い成果をあげている国では子ども達に外国語を学ばせていることも記載している。

五つ目の「異文化への尊重と理解を促す」では、別の言語を学ぶことは、異文化への好奇心を刺激すると述べている。また、学校内外の違った生活様式を受け入れ、協調と相互尊重の姿勢を育むと述べている。さらに、別の言語を学ぶことは、子どもたちの視野を広げ、学校内外における調和と敬意の精神を促進すると説明されている。ビクトリア州政府が多文化社会を重要視していることを理解できる。

次に掲載されている資料は、「LOTEを学んで、夢に向かって生きなさい。（Learn a language, live your dreams）」（図2）である。中等教育で外国語を学ぶ生徒を対象にキャリア、文化、旅行に関する利点をまとめた資料である。ここでは、その利点を四つ挙げている（表7）。

一つ目の「履歴書を充実する」が最初に示されている。中等教育の生徒を対象としているため、中等教育終了後の

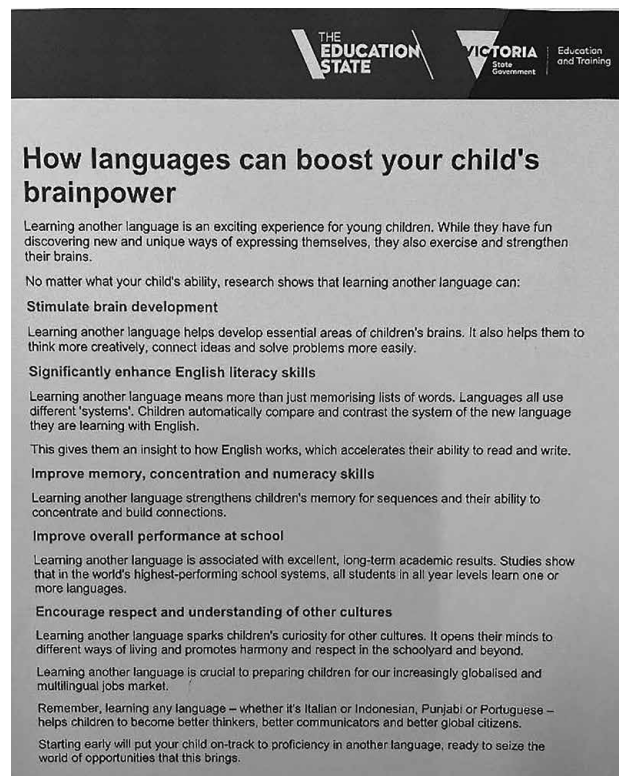


図1 どのようにLOTEが、子どもの脳の働きを伸ばすのか  
(Department of Education, Victoria 2025d から引用)

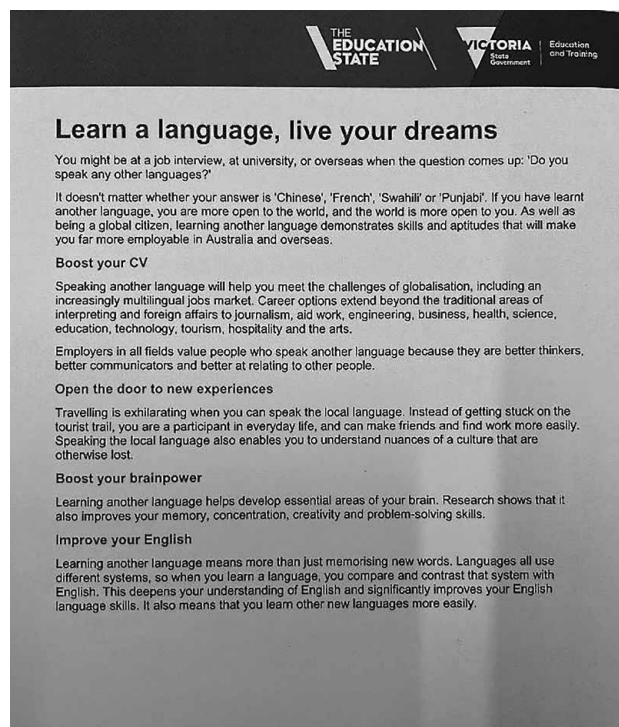


図2 外国語を学んで、夢を実現しよう  
(Department of Education, Victoria 2025d から引用)

表 6  
別の言語を学ぶことでできること  
(筆者が Department of Education, Victoria 2025d  
から翻訳)

- ・脳の発達を刺激する
- ・英語の運用力を大きく伸ばす
- ・記憶力、集中力、数学的能力を向上する
- ・学校での全般的な学業成績を向上する
- ・異文化への尊重と理解を促す

表 7  
LOTE を学ぶ利点  
(筆者が Department of Education, Victoria 2025d から翻訳)

- ・履歴書を充実する
- ・新しい体験への扉を開く
- ・脳の働きを高める
- ・英語力を伸ばす

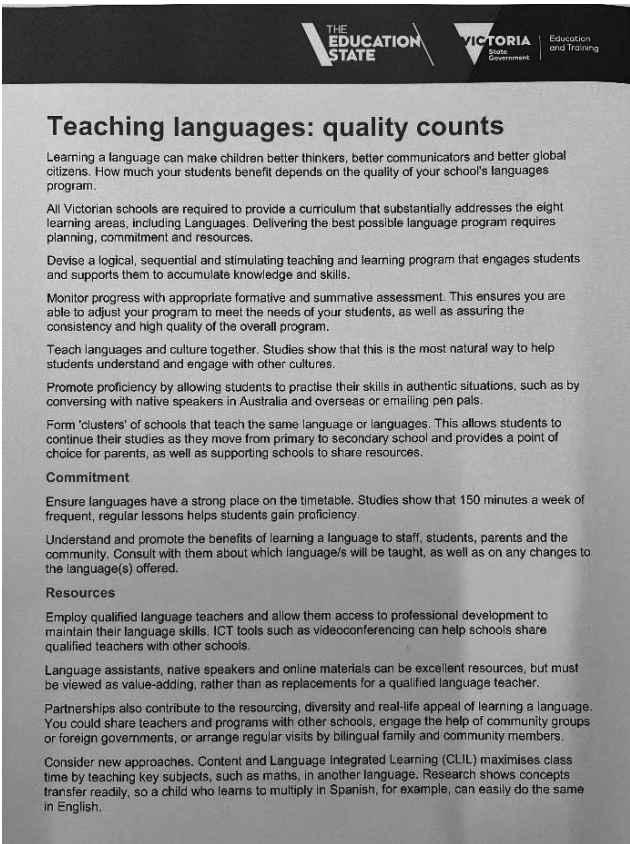


図 3 LOTE 教育：質が重要  
(Department of Education, Victoria 2025d から引用)

進路にも履歴書が関係してくるので、最初に配置されていると考えられる。

二つ目の「新しい体験への扉を開く」では、外国への訪問時における LOTE の学びの利点を説明している。その土地の言語を話すことで、観光客としてではなく、現地の日常生活の一員となり友人や仕事を見つけやすくなったり、文化のニュアンスも理解できたりすると説明している。

三つ目の「脳の働きを高める」では、具体的な引用元は掲載されていないが、研究に基づき別の言語を学ぶことは別の言語には記憶力、集中力、創造力、問題解決能力の向上に寄与することを挙げている。

四つ目の「英語を向上する」では、別の言語を学ぶことは、単に新しい単語を暗記することにとどまらず、異なる構造やしぐみがあり、その言語の構造を英語と比較・対照できることを説明している。このプロセスにより、英語への理解が深まり、英語運用能力が著しく向上すると述べている。

資料として三つ目に掲載されている資料は、「LOTE 教育：質が重要 (Teaching languages: quality counts)」(図 3) である。

この資料は、指導教員や学校の管理職を対象にした資料と考えられる。LOTE を学ぶことは、より良い思考力やコミュニケーション力、グローバル人材に育てることになるという文で始まっている。その効果の大きさは、LOTE 教育プログラムの質にかかっていると述べている。具体的な質の充実として、指導計画、評価、言語と文化の学習、ネイティブスピーカーとの言語を使う機会、定期的で継続的な授業時間、資格を持つ LOTE 教員、内容言語統合型学習を挙げている。

これらに加えて、LOTE 学習の意義を教職員、子ども、保護者、地域社会に周知し、共有することの重要性を含めている。ビクトリア州政府の LOTE 教育の意義を周知することのイニシアチブが存在すると考えられる。

### 3 日本の小学校外国語教育政策への示唆

文部科学省は、外国語を学ぶ意義に関連した記述を中学年の外国語活動の導入の趣旨と高学年の外国語科導入の趣旨の箇所以下のように記述している。

グローバル化が急速に進展する中で、外国語による

コミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている(文部科学省 2018 p.6、p.62)。

日本における外国語を学ぶ意義は、オーストラリアのビクトリア州政府に比べて包括的な表現である。

外国語が生活言語として社会で使われていない日本の場合は、指導者や保護者が外国語を学ぶ意義をしっかりと認識することが重要であると考えられる。

さらに、学ぶ主体である児童が、外国語を学ぶ意義を認識できることは特に肝要である。外国語が必修の領域や教科であるために、外国語を学ばされていると感じている児童がいることも推測される。主体的に外国語を使って他者とコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を獲得できるようになるためには、オーストラリアのビクトリア州政府のように児童がその意義を認識できるような分かりやすい資料提供が日本でも可能であると考えられる。また、指導者や保護者にも外国語を学ぶ意義や利点についての分かりやすい資料提供も必要であると考えられる。

オーストラリアのビクトリア州政府が公表しているLOTEを学ぶ意義や利点の内容をそのまま日本に適用することは避けるべきである。しかし、その内容が日本の児童にも当てはまるのかを科学的に検証することは可能である。特に、外国語を学ぶことが、日本語の能力の向上に関連するのか、記憶力、集中力、数学的能力等の向上に関連するのかなどは科学的な検証が必要な内容である。科学研究費助成事業などで大規模な研究が考えられる。

もちろん学習指導要領が定める目標である外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成することが基本となることには変わりがない。そのためには、外国語を使用する目的、場面、状況をしっかりと設定し、児童が主体的に学べるように指導することから逸脱しないことは原則である。

## 引用文献

上石実加子 (2014) 「メルボルンの小学校における外国語の教えと学び—オーストラリアの多文化主義とシ

ティズンシップに照らして—」 『北海道教育大学釧路校研究紀要』 第46号 pp.2-6

国際交流基金 (2024) 「国際交流基金日本語教育 国・地域別情報・オーストラリア (2023 年度)」 <https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2023/australia.pdf> 2025年7月1日閲覧

嶋津拓 (2012) 「言語は「資源か」か、それとも「権利」か — 日本が学ぶこと —」 『オーストラリア研究』 第25号 pp.2-6

白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 (2019) 『英語教育用語辞典』 第3版 大修館書店 pp.62-63

辻伸幸 (2006) 「A Comparative Study on Foreign Language Education in Australia and Japan」 『和歌山大学教育学研究科修士論文』 pp.1-51

辻伸幸 (2009a) 「オーストラリア・ビクトリア州初等教育における外国語教育が日本の小学校英語教育に与える示唆」 『和歌山英語教育研究会研究紀要 EVERGREEN』 No.8 pp.58-65

辻伸幸 (2009b) 「国際交流活動と英語活動の関連した学びでの子ども変容」 『和歌山大学教育学部附属小学校紀要』 第32集 pp.92-95

辻伸幸 (2010) 「世界の人と交流しようとする子どもを育てる外国語活動」 『和歌山大学教育学部附属小学校紀要』 第33集 pp.106-109

辻伸幸 (2013) 「オーストラリアの小学校日本語授業支援プロジェクト」 『和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要』 Vol.23 pp.9-12

辻伸幸 (2019) 「テレビ会議システムを利用した日豪小学校間の国際交流活動普及のためのパイロット研究」 『和歌山信愛女子短期大学 信愛紀要』 No.60 pp.9-12

ハグリー・エリック・清末愛砂・永井真也 (2013) 「オーストラリアおよびニュージーランドにおける社会政策の現状から学ぶ：公共サービス、言語教育、ジェンダー平等の観点から」 『室蘭工業大学紀要』 63巻 pp.123-134

升谷健太 (2023) 「オーストラリアにおける教育政策の分析観点に関する一考察 —多文化主義と経済的発

展志向の影響に着目して一」 『名古屋大学大学院  
教育発達科学研究科教育科学専攻『教育論叢』 第  
66号 pp. 25-32

文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年  
告示) 解説 外国語活動・外国語編』

Department of Education, Victoria (2025a)

Foundation (Prep) Enrolment Information Pack for  
Parents and Carers

<https://www.education.vic.gov.au/Documents/school/parents/Foundation-Prep-enrolment-information-pack-parents-carers.pdf> 2025 年 8 月 30 日閲覧

Department of Education, Victoria (2025b)

<https://www.vic.gov.au/school-term-dates-and-holidays-victoria#2025-term-dates>  
2025 年 8 月 30 日閲覧

Department of Education, Victoria (2025c) [https://www.vic.gov.au/pal/languages-education/policy?utm\\_source=](https://www.vic.gov.au/pal/languages-education/policy?utm_source=)  
2025 年 8 月 30 日閲覧

Department of Education, Victoria (2025d) [https://www2.education.vic.gov.au/pal/languages-education/guidance/promote-learning-language?utm\\_source](https://www2.education.vic.gov.au/pal/languages-education/guidance/promote-learning-language?utm_source)  
2025 年 8 月 30 日閲覧

Public Record Office Victoria (2025)  
<https://prov.vic.gov.au/archive/VA5497/about>  
2025 年 8 月 31 日閲覧

State of Victoria, Department of Education and Early Childhood  
Development, Victoria, (2013) Languages – expanding  
your world Plan to implement The Victorian  
Government’s Vision for Languages Education 2013–2025

Victoria State Government Department of Education and Training  
(2021) Languages Provision in Victorian Government  
Schools 2020  
<https://content.sdp.education.vic.gov.au/media/languages-provision-in-victorian-government-schools-2020-pdf-1966> 2025 年 8 月 21 日閲覧

Victoria State of Government (2025)  
Victoria's Education System  
[https://www.study.vic.gov.au/en/international-student-program/schools-and-programs/victorias-education-system?utm\\_source](https://www.study.vic.gov.au/en/international-student-program/schools-and-programs/victorias-education-system?utm_source) 2025 年 8 月 31 日閲覧

Victorian Curriculum and Assessment Authority (2025) Are there  
a minimum number of hours that schools must allocate to  
teaching of particular curriculum areas  
<https://www.vcaa.vic.edu.au/curriculum/foundation-10/frequently-asked-questions-0> 2025 年 8 月 1 日閲覧

